

氏蓋左京大夫兼周防介義隆云々トアリ、

〔東雅七器用〕漏刻

慶長年中に、西洋人トケイといふものをまいらせし事あり、其制に倣製れるもの、今は盛に世に行はれぬトケイといふ事、蕃語にはあらず、其時の事ゑるせし日記には、斗鶏とゑるしたりけり、これは明の人して、蕃語を譯せしにて、まいらせし所也、其器の制、北斗の象のごとくなるものありて、其指す所に隨ひて、其時をえり、鳴りて時を報ずる事、鶏のごとくなれば、かくは名づけし也、其器の妙をかたどりいひし事、たゞ二字に盡ぬ、今は其字をば用ひざるにや、

〔和漢三才圖會十五〕自鳴鐘俗云時計

按。土圭一名圭尺以八尺板爲表、擊之以測晷、知時刻、定

夏至冬至之差、曆家者流必用之、重器也、

漏刻盛水於桶、量所漏水、漏知時刻、其巧甚精矣、天

智帝十年、始作漏刻、撞時辰之鐘焉、然近頃有自鳴

鐘以來、無如之者、而俗名時計、有樓、時計、鐘、樓、上、安、

自鳴鐘、機、有懷、中、時、計、向、關、陀、人、始、將、來、有、釣、時、計、掛、家、柱、有、二、鍾、隨、自、旋、皆、中、機、如、車、輪、者、刻、齒、多、相、接、機、轉、運、旋、用、鐵、作、之、名、世、牟、末、伊、是、乃、旋、機、之、根、也、

〔雍州府志土產〕土圭 自鳴鐘、倭俗謂土圭、元自阿蘭陀國來、今本朝人、倣彼所製、而處々造之、其內御

幸町二條北所造爲宜、又砂土圭、漏刻、亦今造之、

〔周禮十〕以土圭之法、測土深、正日景、以求地中、中日至之景、尺有五寸、謂之地中、

〔掌中時辰儀示蒙〕俗に根付時計と稱する物、爰に掌中時辰儀と名く、近歲舶來漸く多く、世專奇玩

とす、其製年々奇巧を極め、種々の新製あれども、畢竟玩物にして、日々天行時刻に密合する物に

